

第2分科会 第2分散会 教育課程Ⅱ

研究課題 人間力向上を図る教育課程の編成

趣 旨

国際的な「知」の競争時代と言われている現代は膨大な知識が蓄積され活用されている。今大切なことは、知識の量的な拡大よりも、知識を構造化してそれらを生かす力を身につけることである。そのためにこそ、確かな学力の向上を図ることが極めて重要なことと言える。確かな学力とは、知識・技能の習得をはじめとして、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など、すべてが相互に関連しあった総合的な学力である。学ぶ意欲を高めるためにはこの力を実生活と結びつけ、生きて働く力まで高め深めていくことが大切である。

学校は、学習指導要領の理念・趣旨を踏まえ地域の実態や特色を生かしつつ、基礎的・基本的内容の確実な定着と、子どもの能力や特性を引き出すきめ細かな指導が行えるよう教育課程の編成に努めてきた。

こうした取組みの中で、「中央教育審議会教育課程部会」において「人間力」向上のための教育内容の改善充実が提唱された。これは学習指導要領が目標としている「生きる力」を実社会や実生活との関係でより具体化し、社会との関係で学校教育に求められているものは何かについて、学校と社会との間の共通認識を形成しようとする考えである。この「人間力」という考え方をを用いることは子どもたちに、現実の社会では大人がどのように生き、そこでは何が必要とされているのかを見せることによって、学ぶことの意義を子どもたちに伝え、何のために学ぶのかといった目的意識を明確にすることをねらいとしている。

こうした視点から学校の教育課程の見直しを行い、より充実した教育課程の編成・改善について明らかにする。

研究の視点

1 確かな学力を育成する教育課程の編成

人間力の向上を図る教育内容の改善として、確かな学力の育成について、単に知識や技能の習得のみでなく、それらを実生活に活用する態度に結びつける力も含まれるとし、その態度をはぐくむことのできる指導形態や指導方法の工夫が必要である。

また、文部科学省による全国学力・学習状況調査の実施とその結果の公表は、各学校に、調査結果を分析し教育課程や学習指導の改善に結び付けて、学校改善に活用することを求めている。

これらのことから、確かな学力を育成する教育課程の編成に果たす、校長の役割や在り方について究明する。

2 社会の形成者としての資質を育成する教育課程の編成

21世紀に活躍する子どもたちには、状況に応じて必要な情報を収集し、多面的に考察・吟味し、合理的な判断ができる力が必要である。さらに、国家社会の形成者としての自覚と資質を育成するためには、「資質・能力の育成」と「知識・技能の定着」の両者の関連を十分に検討し、バランスのある教育課程を編成することが必要である。

また、学校教育法の改正によって義務教育の目標が明確にされ、各学校の教育目標の具体化が求められている。各学校の課題に応じて、教育目標に「人間力」をどのように位置付けるのか、大きな課題である。

それらの課題解決と子どもたちの資質を育成する教育課程の編成に向けた校長の果たすべき役割や在り方を究明する。